［現代社会学部紀要　19巻１号, P73－86（2020）（一般論文）］

1920年代の朝鮮におけるハンセン病問題に関する研究*
－志賀潔における治療主義と隔離主義の相克－

平　田　勝　政**

A Study on the Problems of Hansen's Disease in Korea during 1920s：Focusing on Kiyoshi Shiga's Thought of "Leprosy Salvation"

Katsumasa HIRATA**

１．研究の目的と方法

（１）研究の目的と意義

筆者は十数年前から＜なぜ日本では、ハンセン病患者が国際動向から乖離して90年の長きにわたり隔離を強制され続け、取り返しのつかない過ち（人権侵害・人生被害）を生じさせたのか、その乖離の過程と原因についての歴史的解明はいまだ十分とはいえない＞との課題意識の下に研究を継続し、その成果を発表してきた[1)]。

本研究は、日本のハンセン病政策とその社会事業（当時「救癩」事業）のあり方に決定的な相違をもたらす隔離監禁主義と治療解放（開放）主義に注目して、この２つの考え方の成立・展開と相克の過程を、1920年代に重点を置きながら解明しようとする一連の研究の続報である[2)]。この２つの考え方の存在と相克が顕著に示されているのが、光田健輔（1876～1964）の1929年論文「癩問題の危機」[3)] である。そこでは国内外の「治療至上主義」を厳しく批判し、「日本に於いても朝鮮や台湾」でその「治療至上主義」が見られると指摘している。

本研究は、拙稿（2009a）で検討した「台湾」に続き、残る「朝鮮」に注目して、1920年代の朝鮮ハンセン病問題における隔離主義と治療主義の存在と相克を実証的に解明しようとするものである。別言すれば、本稿では1920年代の朝鮮「救癩」事業には治療主義的解決の台頭・優位から隔離主義的解決へと転換していく過程が存在していることを、志賀潔（1870～1957）に注目して検討しようとするものである。

主な先行研究としては、①滝尾英二著『朝鮮ハンセン病史』（未来社、2001年）、②滝尾英二編・解説『植民地下朝鮮におけるハンセン病資料集成』（全８巻、不二出版、2001～03年）、③『ハンセン病問題に関する検証会議最終報告書』（2005年）所収の「韓国」（705～718頁）、④魯紅梅「朝鮮のハンセン病医療に従事した志賀潔」『日本医史学雑誌』第49巻第１号（2003年）などがあるが、1920年代の朝鮮における治療解放（開放）主義のハンセン病対応策とその中心的人物である志賀潔の果たした役割、その後の志賀の変節に関する解明は十分とはいえない。志賀に代表される治療主義から隔離主義への変節（転換）の解明は、1920年代における両主義の相克とその帰結を象徴する典型例の解明という意義を有する。

（２）研究の方法と倫理的配慮

本研究の分析対象は、発行年月日順に配列した＜資料１＞の朝鮮ハンセン病問題関係資料目録に整理されている全254件(No.1～254)の資料である。内訳は、①整理番号Ａ－１～118が「京城日報」掲載資料、②Ｂ－１～117が上記先行研究の滝尾英二編・解説『植民地下朝鮮におけるハンセン病資料集成』に収録されている「朝鮮朝日」等の資料（主に第４巻）、③Ｃ－１～12が「朝鮮社会事業」「朝鮮医学会雑誌」「朝鮮公論」「朝鮮及満洲」等の雑誌論文資料、④Ｄ－①～⑬は希望社の機関誌におけ志賀潔関係資料、その他１件（No.248）である。上記の先行研究②の滝尾収集資料（Ｂの計117件）は「朝鮮朝日」中心で、「京城日報」掲載資料に遺漏がきわめて多い。その問題点を克服すべく「京城日報」（1920～1931年)を調査して計118件（Ａ－１～118）を確認・収集した。滝尾収集資料では計７件（＜資料１＞No.114,120,121,124,125,127,130）のみで、111件が新資料である。

そこで本研究では、主に新資料の「京城日報」掲載111件を手がかりに、①まず1920年代の朝鮮におけるハンセン病問題の動向とその特徴を再検討し、②次に①の結果をふまえ志賀潔に注目して1925年を頂点とする志賀における治療解放主義（隔離政策批判）の言説とその波紋を検討し、③

* Received October 1, 2020
** 長崎ウエスレヤン大学　現代社会学部　社会福祉学科　Faculty of Contemporary Social Studies, NagasakiWesleyan University, 1212-1 Nishieida, Isahaya, Nagasaki 854-0082, Japan

さらに1926年から希望社運動に接近して1930年に朝鮮における希望社運動の中心的存在となって隔離主義へと転換していく志賀の変節過程を跡付け、④最後に変節の結末である1931年６月25日に内地と連動した「癩病根絶期成同盟大会」の朝鮮における開催に果たした志賀の役割を実証的に解明していく。

なお、本研究では「癩」「天刑病」などの表記に見られるように、人権尊重の見地からすると不適切な用語が使用されるが、歴史的用語として原文のまま引用することをお断りしておく。

２．1920年代の朝鮮ハンセン病問題の動向

（１）1920年代の「京城日報」におけるハンセン病関係資料とその特徴

＜資料１＞に整理した1920年代（1920.１～1931.７）の「京城日報」記事（A－１～118）の主な特徴は、下記のとおりである。

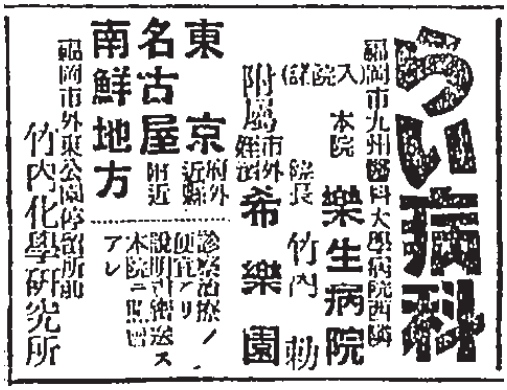
第一に、1920年代初頭から1926年までは「エステル注射によって癩病は全癒する、小鹿島療養所から最近二名の患者が全快退院」（A－９）や「癩病患者治療の効顕はる（上・中・下）」（A–10～12）に代表される治療解放主義（＜資料１＞の備考欄○印）の記事が多く、1927年頃から断種推進の記事（A–34）が登場し、1930年前後には隔離主義の記事（備考欄●印）が支配的になることである。

第二に、滝尾も確認しているように、朝鮮に特有の迷信（「生肝」や「人肉」が癩病の特効薬、「人肉を食えば癩が治る」など）による悲惨な事件や「夫の癩病を治さんと股の肉を喰はす、貞女の鏡だと大評判」との美談の報道が多い事である（A–17,18,25,36,52,57,59,61参照）。

第三に、志賀潔に関係する資料が118件中31件[4]（約26％）を占め、1920年代における朝鮮のハンセン病問題に対する志賀潔の果たした役割の大きさが示されていることである。

第四に、全快・軽快退院以外の明るい記事として、「らい患者」ではない「らい系児童」（＝未感染児童）の通常学校への登校は、「らい患者」でない以上は「登校を断るのは穏当でない」との判断が、「慶南道当局の見解」として1926年時点で表明されていたことである（A–28）。さらに、「癩病注射液、新しく発見」（A–23）との見出しで治療解放主義の竹内勅が経営する福岡楽生病院（拙稿2011）の記事が掲載されていることである。＜資料１＞には記載していないが、「京城日報」には「楽生病院」の「らい病科」の広告（写真１参照）があり、「南鮮地方」にまで化学治療を拡大しようとしていたことは注目される。

＜写真１＞「楽生病院」の新聞広告



（出所）「京城日報」1927.５.27付

以上の動向をふまえて、以下、医学雑誌資料等（＜資料１＞のC－１～12）を含めて、治療解放主義の動向をより具体的に検討していく。

（２）1920年代の朝鮮ハンセン病問題における治療解放主義の動向

朝鮮では、台湾と同様にハワイ大学のディーン博士の治療法の影響が1922年から確認できる。その契機は、斎藤実総督によるディーン博士の論文の志賀への紹介であり、その治療法研究の奨励である。志賀は、「癩の歴史と癩菌（四）」（A–79）の「斎藤総督へ感激」の項で、「大正十一年斎藤総督閣下が米国の新聞を御覧になり、ハワイにて盛に使用されて居る大楓子油『エチールエステル』を製造して之を朝鮮においても治療に用いて見てはとの御相談があった」と述懐している。その結果が、志賀潔の指導の下に加来天民が1922年に発表した「大風子油及び大風子油脂肪酸エチールエステルの製法に就て」（『朝鮮医学会雑誌』第39号）である（C－２,３）。その治療実績の報道が前記のように相次ぎ（A－10～12）、1923年には小鹿島慈恵医院における軽快退院の実施報告（C－４）、さらに「大邱癩患者収容所で二名全快して退院」（A–14）と報じられ、治療効果が広がりを見せていった。

３．志賀潔における治療主義と隔離主義の相克

（１）第６回極東熱帯医学会における志賀潔の隔離主義批判

1925年には治療解放主義の主張（隔離主義批判）が志賀により明言される。1925年10月14日開

催（於・東京）の第６回極東熱帯医学会の部会で、志賀は、「朝鮮における癩の治療及び其運動に対する所見」と題して研究発表し、「大風子油が治療に有望なること及びらい患者隔離が人道上不可との意見」（東京朝日新聞、1925.10.15付）を表明した。志賀は、その学会報告を増補して「朝鮮及満洲」第217号（1925.12）や「中外医事新報」第1097号（1926.１）に「朝鮮ニ於ケル癩治療ノ成績並ニ癩患者ニ対スル意見」を発表した。「中外医事新報」掲載論文（C－６）で「終生隔離主義ヨリ彼等ヲ開放シテ治療退院方針ニ改メザルベカラズ。茲ニ於テカ始メテ吾人ハ人道上ニ立チテ真ノ癩撲滅ヲ期シ得ベシ」と明言した。「朝鮮及満洲」第217号（C－５）では、副題に「終生無退院主義より治癒退院主義へ」と記し、本文では「朝鮮における癩治療の成績に鑑みて吾人は、従来取り来った癩撲滅の方針を変更するの必要を認めたのである。即ち、治癒退院主義である。この主義を以て進み、従来とり来ったところ終生隔離主義より彼等を解放せねばならぬと信ずるものである。（後略）」と志賀の意見を明快に示した。

（２）朝鮮における希望社運動と志賀潔の変節

志賀は、＜資料１＞のD－①～⑬によれば、1926年から希望社運動に接近し、1930年１月には朝鮮全道の病院聯盟の委員長に就任し（D－①②）、1930.４.20には希望社本社（東京）を訪問（D－③）している。さらに希望社京城市聯盟主事（D－④）にも就任し、1931年初頭（１月４～６日）の希望社全国主事総会に出席（D－⑨、写真２参照）して朝鮮における希望社の教化運動や隔離主義の「癩病撲滅」運動の中心的存在となっていく。

＜写真２＞全国主事総会での志賀潔と後藤静香

（出所）D－⑨、前列左から３人目志賀、４人目後藤

その一方で、医学者として「癩菌」の培養研究に精励し、1929年４月には「癩菌ノ培養ト集落形成」（C－７）と題して第三回微生物学聯合学会（1929.４.５～７）で発表した。その発表内容を「京城日報」は学会開催前（1929.３.31）に「癩病菌の研究に志賀博士の大発見」（A－64）との大見出しで報道した。学会当日、その「大発見」の志賀報告に対して、弱冠29歳の林文雄（全生病院医師）がそれは「癩菌」の培養成功ではなく「凝集」に過ぎないと大家の志賀を臆せず批判した（C－７）。さらに、1930年５月開催の京城帝国大学開学６周年記念講演会で、志賀は、「日本の癩の歴史と癩の研究」と題して講演し、癩問題の解決には癩菌の研究が不可欠であること、癩菌培養の重要性とその経過・到達点、今後の展望などを語り、「癩の感染には一定の素質が必要である」「ヴィタミンＡ欠乏は癩感染の素質を作る」等の知見に基づく予防策（仮説としてのヴィタミンＡ摂取の推奨）を示したが、これも批判を受けた。

また志賀は上記の批判の影響と同時期に希望社の隔離主義的「癩根絶」運動を担う中で治療主義的解決から隔離主義的解決に転換していく。1931年３月の記事「安住を求めよ（四）（五）」（A－99～100）では、「癩病を如何にして撲滅するかというと、今日の所では患者を隔離するより外仕方がないのであります。つまりは治療する途が今日猶無いのであります。」、さらに「今日の有様では単に癩に罹った患者を隔離する…一定の病院に収容するという方法より仕方がない、即ち病院内で一生を終るといふことになるのであります。」と述べるに至る。

断種問題でも1926年６月では「人道問題だけに癩病患者に去勢を施すことは考慮を要する」（A－27）と慎重であったが、1927年４月には「去勢」を肯定し（A－34）、さらに同年９月になると「天刑病患者の去勢と卵巣摘出、現実の問題として最上策」（A－41）と主張するに至る。

（3）志賀潔と朝鮮における「癩病根絶期成同盟大会」の開催（1931.６.25）

朝鮮では、拙稿（2013）の表１で示しているように1931年６月25日に朝鮮全土で大会・座談会等が開催された。志賀（希望社京城市聯盟主事）は、大会１カ月前に「癩の撲滅」と題する論説を「京城日報」に連載し（A－103～105,107～108,110）、６月24日には「癩病患者の慰安運動に就て」と題してJODKのラジオ放送も行い（A－109）、朝鮮全土における隔離主義の「救癩」運動（＝「慰安運動」）を積極的に推進していった。

＜写真３＞希望社京城府聯盟主催「講演と音楽の夕」

（出所）A−115より、1931.６.25開催。

その「撲滅デー」における運動の純益金千円は、「小鹿島に病棟を一棟増築するほか、大邱、釜山鎮、栗村等私立療養所に寄附」（A−118）された。

４．まとめと今後の課題

本研究で解明できたことは、下記の諸点である。

第一に、「京城日報」の新資料の検討により1920年代の朝鮮には光田健輔が危機感を抱いた治療主義が確かに存在したことが明らかになったことである。その治療主義の中心に赤痢菌発見者として世界的に著名な志賀潔が存在し、「治癒退院主義」の立場から第３回世界癩病会議で提起された人道的ハンセン病政策への転換を主張していた事実が解明できた意味は大きい。拙稿（2012）で一定の解明をしている1925〜27年に顕著な治療解放主義（青木大勇ら）の強力な後ろ盾として志賀潔の存在と主張があったことが確認できた。

第二に、1930年の京城大学開学記念講演でも癩問題の解決に治療主義を貫徹させていた志賀ではあったが、結局、癩菌の培養には成功せず、逆に、感染しやすい素質を撲滅するために癩患者の断種を優生主義の立場から容認するという問題を顕在化させていったことである。

第三に、朝鮮における希望社運動の中心的役割を担っていく過程で、1931年には隔離主義に基づく希望社の「癩根絶」運動を推進して、「治癒退院主義」は後退（頓挫）していったことである。とくに1931年９月の希望社事件（後藤静香のスキャンダルによる信用失墜、希望社没落）を前後して、恩師北里柴三郎の死去（1931.６.13）、希望社運動に積極的に関係したこと、京城帝国大学での後任人事問題による孤立化等々が災いして、やがて京城帝国大学総長辞意表明で終焉を迎え、寂しく朝鮮を去るに至る。それは朝鮮（さらには日本）における治療主義の重要な研究拠点の喪失を意味した。

今後の朝鮮ハンセン病問題史研究の課題は、①「京城日報」以外の新聞資料（「朝鮮朝日」等）の再調査による原典確認、遺漏の有無などの補正・補充作業をした上で、1920年代の動向をさらに精緻に解明していくこと、②当時朝鮮に存在した小鹿島慈恵医院以外の私立３病院（大邱癩病院、釜山癩病院、ビーダーワルフ癩病院）を含めて治療主義と隔離主義の相克を検討していくこと、③さらには1930年代の朝鮮における「らい予防デー」に注目した内地延長主義の「救癩」運動（隔離主義運動）の影響と実態を「台湾」[5)]と比較しつつ検討していくことである。

＜注＞

１）筆者のハンセン病問題に関する研究成果は、下記のとおりである。

①拙稿（2009a）：1920年代の台湾におけるハンセン病問題に関する研究「研究論文集―教育系・文系の九州地区国立大学間連携論文集―」第２巻第２号，１〜11,2009年３月

②拙稿（2009b）：日本ハンセン病社会事業史研究（第１報）―1922年のディーン博士の来日とその治療解放主義の影響の検討―「長崎大学教育学部紀要―教育科学―」第73号,31〜42頁,2009年３月

③拙稿（2009c）：「日本ＭＴＬ（日本救癩協会）と機関誌『日本ＭＴＬ(楓の蔭)』」（『近現代日本ハンセン病問題資料集成（補巻16〜19）解説・総目次・索引』所収）不二出版，５−17頁,2009年５月

④拙稿（2010）：日本ハンセン病社会事業史研究（第２報）―民間の隔離主義運動の成立・展開過程の検討―「長崎大学教育学部紀要―教育科学―」第74号,１〜15頁,2010年３月

⑤拙稿（2011）：日本ハンセン病社会事業史研究（第３報）―治療解放主義の系譜（楽生病院）の検討―「長崎大学教育学部紀要―教育科学―」第75号,25−34頁,2011年３月

⑥拙稿（2012）：日本ハンセン病社会事業史研究（第４報）―治療解放主義の形成と軽快退所問題の検討―「長崎大学教育学部紀要―教育科学―」第76号,31−41頁,2012年３月

⑦拙稿（2013）：日本ハンセン病社会事業史研究（第５報）―1920年代における希望社のハ

ンセン病救済運動の検討―「長崎大学教育学部紀要―教育科学―」第77号,35～50頁,2013年３月

⑧拙稿（2014）：日本ハンセン病社会事業史研究（第６報）－希望社地方支部のハンセン病救済運動と十坪住宅の成立－「長崎大学教育学部紀要－教育科学－」第78号,pp.41～48, 2014年３月

⑨拙稿（2015）：日本ハンセン病社会事業史研究（第７報）－希望社のハンセン病救済運動と「らい予防デー」の成立－「長崎大学教育学部紀要－教育科学－」第79号,pp.65～76, 2015年３月

⑩拙稿（2016a）：日本ハンセン病社会事業史研究（第８報）－「らい予防デー」の成立過程の検討－「長崎大学教育学部紀要－教育科学－」第80号,pp.57～65, 2016年３月

⑪拙稿（2016b）：九州における希望社運動の研究－希望社九州聯盟の検討を中心に－「九州教育学会研究紀要」第43巻 pp.65～72,2016年８月

⑫拙稿（2017）：日本ハンセン病社会事業史研究（第９報）－ラジオ放送に見る「らい予防デー」の展開過程の検討－「長崎大学教育学部紀要－教育科学－」第81号,pp.121～130, 2017年３月

⑬拙稿（2018a）：岩下壮一とハンセン病－祖国浄化論の検討－「長崎大学教育学部紀要－教育科学－」第82号,pp.73～85, 2018年２月

⑭拙稿（2018b）：1930年代の東京におけるハンセン病救済運動と「らい予防デー」「東京社会福祉史研究」第12号,pp.47～57, 2018年５月

⑮拙稿（2019）：後藤静香とハンセン病「長崎大学教育学部紀要－教育科学－」第83号, pp.73～85, 2019年３月

２）1920年代研究の主な成果は、注１）の①～⑦である。

３）光田健輔：癩問題の危機「東京医事新誌」第2624号,1029頁,1929年５月25日

４）31件は、A-3,5,10,11,12,14,27,34,41,64,65,71,72,73,76,77,78,79,80,81,83,99,100,102,103,104,105,107,108,109,110を参照。

５）筆者はすでに「台湾」について注１）の①以外に、下記の研究成果を発表しており、「朝鮮」との比較検討が残る課題となっている。

①清水寛・平田編集・解説『近現代日本ハンセン病問題資料集成（補巻７）台湾のハンセン病政策』,不二出版,全548頁,2005年12月

②平田：日本の植民地下台湾におけるハンセン病問題資料目録「長崎大学教育学部紀要―教育科学―」第70号,pp.43～48, 2006年３月

③平田：1930年代のハンセン病社会事業に関する研究－台湾における「らい予防デー」の成立・展開過程とその影響の検討－（『社会事業史学会第43回大会報告要旨集』79-80頁、2015年５月

（付記）本研究は、社会事業史学会第42回大会（2014年５月10日、於・長崎純心大学三ツ山キャンパス）において発表した「1920年代のハンセン病と社会事業（第10報）―朝鮮（志賀潔）における隔離主義と治療主義の相克―」（『社会事業史学会第42回大会報告要旨集』94～95頁）を改題し、当日発表資料を若干修正・加筆してまとめたものである。いささか旧稿で大幅な手直しの必要を感じたが、定年退職の混乱と今回のコロナ禍により追加・確認の調査等が不可能で補強できなかったことを遺憾とする。他日を期したい。

＜資料1＞京城日報（1920～1931）におけるハンセン病問題関係資料目録

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
1	B-1		朝鮮の癩患者	大阪朝日新聞附録「朝鮮朝日」		1918(T. 7). 6.21	4巻
2	B-2		癩病を癒すため従兄を惨殺して其の生血を飲ます	「朝鮮朝日」		1920(T. 9). 1.27	4巻
3	A-1		癩病国の汚名を雪ぐ新予防法案	「京城日報」第4642号	4面	1920(T. 9). 9. 9	●
4	B-3		癩病患者救済運動、エビソン博士の主唱	「朝鮮朝日」		1920(T. 9). 9.29	4巻
5	B-4		大邱医専の前提	「朝鮮朝日」		1921(T.10). 5. 1	4巻
6	A-2		フォーラー氏、癩病の研究で近く入鮮す	「京城日報」第4879号	5面	1921(T.10). 6. 8	○
7	B-5		概ね日本人は癩病に真箇の理解がない、斉藤総督の書簡の一節	「朝鮮朝日」		1921(T.10). 9.23	4巻
8	A-3		癩病患者に天来の福音、対症療法から根本的療法へ（志賀博士談）	「京城日報」第5006号	4面	1921(T.10).10.16	○
9	B-6	村田　正太	朝鮮に於ける救癩問題	「日本及日本人」第821号	32-35	1921(T.10)-11	6巻
10	C-1	村田　正太	朝鮮に於ける救癩問題	「医学及医政」第8巻第11号	25-28	1921(T.10)-11	
11	A-4		全北の一孤島に国立癩患者収容所を建設して伝国の癩病患者を収容せんと云ふ計画、鮮内の該病患者は三千名	「京城日報」第5038号	6面	1921(T.10).11.19	●
12	B-7		鮮人訓導自殺	「朝鮮朝日」		1921(T.10).12.18	4巻
13	B-8		孤独な癩療養所、総督府で慰問計画	「朝鮮朝日」		1921(T.10).12.28	4巻
14	A-5		五封度の機械を据えて癩病特効薬を製剤、総督府医院で志賀院長指揮下に治療法の目鼻もついた	「京城日報」第5074号	2面	1921(T.10).12.26	○
15	A-6		憐れな世捨人癩病患者へ同情	「京城日報」第5163号	5面	1922(T.11). 3.30	
16	A-7		癩病患者のために後援会を組織して救済したいとア氏の奔走、全鮮に二万の憐むべき患者	「京城日報」第5188号	4面	1922(T.11). 4.25	
17	B-9		癩患者収容近況、志賀院長談	「朝鮮朝日」		1922(T.11). 5.11	4巻
18	A-8		【釜山】解放された癩病患者、釜山署警戒す	「京城日報」第5217号	3面	1922(T.11). 5.24	
19	A-9		エステル注射によって癩病は全癒する、小鹿島療養所から最近二名の患者が全快退院	「京城日報」第5292号	4面	1922(T.11). 8.13	○
20	B-10		総督巡視予定	「朝鮮朝日」		1922(T.11).11.18	4巻
21	A-10	志賀　潔	癩病患者治療の効顕はる（上）	「京城日報」第5384号	2面	1922(T.11).11.18	○
22	A-11	志賀　潔	癩病患者治療の効顕はる（中）	「京城日報」第5386号	1面	1922(T.11).11.20	○
23	A-12	志賀　潔	癩病患者治療の効顕はる（下）	「京城日報」第5387号	2面	1922(T.11).11.21	○
24	A-13		癩病の隔離と治療	「京城日報」第5387号	2面	1922(T.11).11.21	
25	B-11		総督巡視地点	「朝鮮朝日」		1922(T.11).11.21	4巻
26	B-12		米国領事の癩病院視察	「朝鮮朝日」		1922(T.11).11.22	4巻
27	B-13		斉藤総督、癩病院を視る	「朝鮮朝日」		1922(T.11).11.24	4巻
28	B-14		（人）斉藤実氏　＊1922.11.24夜、帰京城	「朝鮮朝日」		1922(T.11).11.28	4巻
29	C-2	加来　天民	大楓子油及大楓子油脂肪酸「エチールエステル」ノ製法ニ就テ（大正十一年七月京城支会報告）	「朝鮮医学会雑誌」第39号	252-261	1922(T.11)-11 ?	○
30	C-3	加来　天民	大風子油及び大風子油脂肪酸「エチールエステル」の製法に就て	「日本之医界」第12巻第47号	1341-1343	1922(T.11).12. 9	○

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
31	B-15		（半島茶話）　＊牧田軍医監、小鹿島を視察	「朝鮮朝日」		1923(T.12). 1.31	4巻
32	B-16		小鹿島の天刑病院、牧田朝鮮軍医部長	「朝鮮朝日」		1923(T.12). 2. 6	4巻
33	C-4	花井　善吉	小鹿島慈恵医院ニ於ケル癩患者ノ統計	「朝鮮医学会雑誌」第42号	88-100	1923(T.12)-4	
34	A-14		志賀博士の発明した天刑病の注射液、大邱癩患者収容所で二名全快して退院す	「京城日報」第5564号（夕刊）	3面	1923(T.12). 5.24	○
35	A-15		（栄光の人(6)）私立癩病隔離院管理者マッケンジー氏	「京城日報」第5814号	5面	1924(T.13). 2. 5	
36	A-16		重ね重ねの栄光、奨励金を下賜された社会事業団体（六）大邱癩病院	「京城日報」第5827号	5面	1924(T.13). 2.19	
37	B-17		股肉を割いて病夫に薦める、迷信に囚はれた貞婦	「朝鮮朝日」		1924(T.13). 3. 4	4巻
38	B-18		（広告）らい病　＊小松屋（草津湯之澤温泉）	「朝鮮朝日」		1924(T.13). 3.14	4巻
39	B-19		癩患者救済と私鉄補助、何れも経費が許さぬ、有吉総監談	「朝鮮朝日」		1924(T.13). 4. 3	4巻
40	A-17		夫の癩病を治さんと股の肉を喰はす、貞女の鑑だと大評判	「京城日報」第5874号	2面	1924(T.13). 4. 6	
41	A-18		癩病患者が死人の肉を喰ふ、警察当局が大警戒	「京城日報」第5883号	2面	1924(T.13). 4.15	
42	B-20		癩病患者で一部落を造る	「朝鮮朝日」		1924(T.13). 5.27	4巻
43	A-19		大邱に多数の癩患者集る、評判の好い病院が満員で入院を待つため	「京城日報」第5958号（夕刊）	2面	1924(T.13). 6.29	
44	B-21		釜山の海辺を慕うて集まる癩患者の群れ、当局その処置に困る	「朝鮮朝日」		1924(T.13). 8.12	4巻
45	A-20		下岡総監南朝鮮視察記（承前）癩病々院に到る、患者は狂喜して迎へた	「京城日報」第6033号（夕刊）	1面	1924(T.13). 9.12	
46	B-22		迷信から生肝採り、危難を脱した鮮人少女	「朝鮮朝日」		1924(T.13).10. 9	4巻
47	B-23		わが身を裂いて病める夫に	「朝鮮朝日」		1924(T.13).10.10	4巻
48	A-21		【大邱】由々しき社会問題、死を待つ天刑病者、速に救済方法を講ぜよ	「京城日報」第6075号（夕刊）	3面	1924(T.13).10.24	
49	A-22		癩病乞食、市内に殖えた	「京城日報」第6097号	3面	1924(T.13).11.16	
50	A-23		癩病注射液、新しく発見　※竹内勅（楽生病院）関係記事	「京城日報」第6135号	2面	1924(T.13).12.24	○
51	B-24		癩病療養所拡張と増設、明年予算に計上計画中	「朝鮮朝日」		1925(T.14). 4.24	4巻
52	B-25		基督教の感化で子孫を持たぬ、朝鮮癩病患者、病気の伝はるを恐れ	「朝鮮朝日」		1925(T.14). 5.15	4巻
53	A-24		【釜山】慶南管内に一千人の癩病患者、当局も対策に手を焼く（永富道衛生課長談）	「京城日報」第6293号	3面	1925(T.14). 6. 4	
54	B-26		生肝を取らんと鮮婦人の少女誘拐、通行人に発見され果さず、癩病を癒す迷信から	「朝鮮朝日」		1925(T.14). 8. 9	4巻
55	B-27		大邱癩病院の患者百名が大立廻りを演ず	「朝鮮朝日」		1925(T.14). 8.12	4巻
56	A-25		股肉を切って夫の病を癒す、人肉が特効薬といふ迷信が生んだ美譚	「京城日報」第6366号（夕刊）	2面	1925(T.14). 8.16	
57	B-28		癩病患者収容難、慶北焦慮す	「朝鮮朝日」		1925(T.14). 9.20	4巻
58	B-29		癩病の我児に人肉が薬と聞き乞食の少年を殺した母親遂に死刑	「朝鮮朝日」		1925(T.14).10.22	4巻
59	A-26		癩病協会長ウ博士入城　＊ウ博士＝ウィリアム・ダンナー博士	「京城日報」第6448号（夕刊）	2面	1925(T.14).11. 8	○
60	C-5	志賀　潔	朝鮮に於ける癩治療の成績並びに癩患者隔離に対する意見－肉体病である癩は医学的治療法に俟ち、終生無退院主義より治癒退院主義への効果－	「朝鮮及満洲」第217号	26-28	1925(T.14)-12	○
61	C-6	志賀　潔	朝鮮ニ於ケル癩治療ノ成績並ニ癩患者隔離ニ対スル意見	「中外医事新報」第1097号	1-7	1926(T.15)-1	○
62	B-30		癩病薬に怪魚を買取る	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 3.20	4巻

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
63	B-31		癩病の薬に人肉が利くと聞き己の股の肉を裂き夫に進めた妻	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 4. 3	4巻
64	B-32		癩病患者が馬山に蟠居、立退を肯ぜぬ	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 4.21	4巻
65	B-33		癩病患者が釜山へ集まり、これではたまらぬと当局が頭を悩ます	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 5.19	4巻
66	B-34		各道聯合して癩療養所設置か、慶尚南道では釜山へ委さず対策に頭を捻る	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 5.21	4巻
67	A-27	志賀　潔	人道問題だけに癩病患者に去勢を施すことは考慮を要する、志賀医院長語る	「京城日報」第6648号（夕刊）	1面	1926(T.15). 6. 1	○
68	B-35		癩患者の集り来る釜山の悩み	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 6.26	4巻
69	A-28		【釜山】泗川で問題になったらい系児童の通学、患者でないから登校を断るのは穏当でない（慶南道当局の見解）	「京城日報」第6686号（夕刊）	3面	1926(T.15). 7. 9	
70	A-29		癩患者慰問，大毎慈善団が千円寄附	「京城日報」第6694号（夕刊）	2面	1926(T.15). 7.17	
71	A-30		【釜山】一千名の癩患者を収容する療養所、南鮮地方に新設、下検分のため石川衛生課長来釜	「京城日報」第6728号	3面	1926(T.15). 8.20	
72	B-36		釜山癩病院の肢体を寄贈す、解剖用に困り抜く城大の医学部教室へ	「朝鮮朝日」		1926(T.15). 9.24	4巻
73	A-31		【大邱】癩病の巡回診療、フレッチャー氏の計画、慶北道内三ケ所で	「京城日報」第6777号	3面	1926(T.15).10. 8	
74	B-37		癩病患者の研究材料に死体を提供	「朝鮮朝日」		1926(T.15).10.14	4巻
75	B-38		癩病患者が補助を懇願、斉藤総督宛に	「朝鮮朝日」		1926(T.15).10.16	4巻
76	B-39		治療費の下附を陳情、癩病患者が	「朝鮮朝日」		1926(T.15).11. 7	4巻
77	B-40		光州と小鹿島の病院の新築で総ての癩患者を収容し得る見込	「朝鮮朝日」		1926(T.15).11.10	4巻
78	B-41		東莱に巣喰ふ癩患者の群れ、相助会を組織し共産的の生活をなす、補助金交付は却下さる	「朝鮮朝日」		1926(T.15).12. 2	4巻
79	B-42		癩病院の拡張、有志の寄附で	「朝鮮朝日」		1926(T.15).12. 2	4巻
80	B-43		懸案だった癩病院移転、光州からは立退料交附	「朝鮮朝日」		1926(T.15).12.29	4巻
81	A-32		天刑病者に救ひの光至る、麗水の癩病院、本夏中に完成	「京城日報」第6868号	7面	1927(S. 2). 1.12	
82	B-44		光州癩病院いよいよ移転	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 1.12	4巻
83	B-45		御下賜金をそれぞれ伝達	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 2.16	4巻
84	A-33		優良なる社会事業団体（三）大邱癩病院	「京城日報」第6906号	3面	1927(S. 2). 2.20	
85	B-46		昨年中に収容した癩患者の延人員、五十三万八千人、年々増加の傾向がある	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 4.10	4巻
86	B-47		患者の希望で去勢を実行し、癩患の撲滅を期する、志賀博士の内地帰来談	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 4.14	4巻
87	A-34		天刑病患者は「去勢させねば」と、生理学会から帰った志賀総督府医院長談	「京城日報」第6959号（夕刊）	2面	1927(S. 2). 4.14	●
88	★		癩病の根絶は去勢するしかない、志賀博士談	「東亜日報」		1927(S. 2). 4.15	4巻
89	A-35		癩病患者取締、道知事会議の問題とならん	「京城日報」第6960号	4面	1927(S. 2). 4.15	
90	B-48		癩療院の補助増額を当局に陳情	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 5.12	4巻
91	B-49		小鹿島医院病舎を増築、癩患者四百名を収容す	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 6. 4	4巻
92	A-36		天刑病患者が少年の生肝とり	「京城日報」第7041号	7面	1927(S. 2). 7. 5	
93	A-37		放浪の旅に迷ふ哀れな天刑病患者	「京城日報」第7041号	7面	1927(S. 2). 7. 5	
94	A-38		癩患者は離島へ、釜山商議が移転陳情	「京城日報」第7093号	6面	1927(S. 2). 8.26	●

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
95	B-50		全南小鹿島癩療養所に娯楽機関設置	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 8.27	4巻
96	A-39		癩病患者の取締を陳情、釜山商議から道知事へ（慶尚南道）	「京城日報」第7098号	4面	1927(S. 2). 8.31	
97	A-40		癩病の孫娘を殺す、断崖から突落して（慶尚南道）	「京城日報」第7098号	4面	1927(S. 2). 8.31	
98	B-51		癩病患者の取締を陳情	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 8.31	4巻
99	B-52	周防正季（京畿道衛生課長）	モルヒネ誘惑	「朝鮮朝日」		1927(S. 2). 8.31	4巻
100	B-53		癩患者救済予防の第一期計画、二、三年のうちに完成	「朝鮮毎日」		1927(S. 2). 8.31	4巻
101	B-54		患者一掃を知事に陳情	「朝鮮毎日」		1927(S. 2). 8.31	4巻
102	A-41		天刑病患者の去勢と卵巣摘出、現実の問題として最上策（志賀総督府医院長談）	「京城日報」第7112号	1面	1927(S. 2). 9.14	●
103	A-42		癩患者の救済は世界の悩みである、朝鮮には約五万人ある（クリット氏談）	「京城日報」第7112号	4面	1927(S. 2). 9.14	
104	A-43		全国癩療養所長会議	「京城日報」第7119号	2面	1927(S. 2). 9.21	
105	A-44		漸進的にやる天刑病予防施設、常に全鮮的問題、湯浅政務総監語る（釜山特電）	「京城日報」第7120号	2面	1927(S. 2). 9.22	
106	A-45		天六病院長取調べらる	「京城日報」第7136号	4面	1927(S. 2).10. 8	
107	B-55		癩患者が増長し婦女子に戯る、伝染病の患者だけに取締が十分徹底せぬ	「朝鮮朝日」		1927(S. 2).10.11	4巻
108	A-46		小鹿島の癩病隔離院、患者蝟集す（釜山）	「京城日報」第7148号	4面	1927(S. 2).10.20	
109	A-47		【慶尚南道】癩患者の大整理、縁故ある者は縁故者へ、其他は療養院へ	「京城日報」第7150号	5面	1927(S. 2).10.22	
110	B-56		西亀技師、欧米を視察、印度の帰途	「朝鮮朝日」		1927(S. 2).11. 1	4巻
111	A-48		【慶尚南道】癩患収容所寄附募集、事業拡張に充当（釜山）	「京城日報」第7169号	4面	1927(S. 2).11.11	
112	A-49		【慶尚南道】癩患療養所拡張陳情、釜山社会事業研究会で決議（釜山）	「京城日報」第7173号	4面	1927(S. 2).11.15	
113	B-57		寄附を仰ぎ釜山癩療院、治療室を増築	「朝鮮朝日」		1927(S. 2).11.22	4巻
114	A-50 B-58		小鹿島に注がれた同情	「京城日報」第7204号	2面	1927(S. 2).12.16	滝尾 4巻
115	A-51		【慶尚南道】病院に溢れた癩患者、当局頭を捻る	「京城日報」第7205号	4面	1927(S. 2).12.17	
116	B-59		病院に溢れた癩患者、当局頭を捻る	「朝鮮朝日」		1927(S. 2).12.17	4巻
117	B-60		伝染病院の累計患者数、一万二千人	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 3.18	4巻
118	B-61		暖になって始末に困る、釜山の癩患	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 3.18	4巻
119	B-62		滴る生血を啜る兇暴無残な殺人鬼、癩患治癒の迷信から六歳の小児を惨殺す	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 3.30	4巻
120	A-52 B-63		屍体を発掘して人肉の酒を造る、天刑病者の迷信（大邱）	「京城日報」第7322号	5面	1928(S. 3). 4.17	滝尾 4巻
121	A-53 B-64		芋泥棒から天刑病者騒ぐ、近頃多くなった釜山の同病患者	「京城日報」第7323号	5面	1928(S. 3). 4.18	滝尾 4巻
122	B-65		癩患者三十名が帆船を襲って芋を奪はんとして乗組員と格闘を演ず	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 4.18	4巻
123	B-66		全南小鹿へ癩患を送る	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 4.20	4巻
124	A-54 B-67		【全羅南道】雪崩込む天刑病患者、当局も手古摺る	「京城日報」第7329号	2面	1928(S. 3). 4.24	滝尾 4巻
125	A-55 B-68		天刑病院を拡張して更に五百名を収容	「京城日報」第7347号（夕刊）	2面	1928(S. 3). 5.13	滝尾 4巻

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
126	B-69		釜山の癩患者を小鹿島に移す、更に便利な島嶼に収容所設置を計画	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 5.16	4巻
127	A-56 B-70		伝染病予防令の改正に就て	「京城日報」第7351号	3面	1928(S. 3). 5.17	滝尾 4巻
128	B-71		掻っ払ひの癩患者放逐	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 5.17	4巻
129	B-72		癩患者狩集め、小鹿島に送る	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 6. 3	4巻
130	A-57 B-73		生肝を抜く癩患者の一団、星州方面を徘徊	「京城日報」第7375号（夕刊）	2面	1928(S. 3). 6.10	滝尾 4巻
131	B-74		癩病患者が物品を強要、庶民が困る	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 6.12	4巻
132	B-75		大邱癩患者一斉に狩立、原籍地に送還	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 6.19	4巻
133	A-58		全南小鹿島の癩患者収容所、二百名分は完了し更に拡張工事中	「京城日報」第7392号（夕刊）	2面	1928(S. 3). 6.27	
134	B-76		癩病を癒さんと人肉を食はす、近所の子供を連れ込み殺した上での兇行	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 7.19	4巻
135	A-59		天刑病患者が人肉斬取り、遂に小児を殺す、数日を経て発覚	「京城日報」第7423号（夕刊）	2面	1928(S. 3). 7.28	
136	B-77		生肝を取るべく子供を菰で包み逃げ行く癩病患者、危く救はれた四歳の男児	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 7.28	4巻
137	B-78		癩患者の駆逐を講ず、釜山府の計画	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 8. 9	4巻
138	B-79		大邱の癩患者五十余名を小鹿島に隔離	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 8.17	4巻
139	B-80		小鹿島の癩病院、収容力を増し、四道の患者を移す	「朝鮮朝日」		1928(S. 3). 9. 3	4巻
140	B-81		釜山の頭痛、癩患の放置、対策を考究中	「朝鮮朝日」		1928(S. 3).10. 2	4巻
141	B-82		生肝取に死刑の求刑をなす	「朝鮮朝日」		1928(S. 3).10. 9	4巻
142	B-83		経費不足で癩療養所が患者を放還	「朝鮮朝日」		1928(S. 3).10.17	4巻
143	B-84		放置される癩患者達が不穏の形勢	「朝鮮朝日」		1928(S. 3).10.18	4巻
144	A-60		五百名の癩患者騒ぐ、東莱郡の療養院が経営難に陥って	「京城日報」第7506号（夕刊）	2面	1928(S. 3).10.19	夕刊？
145	B-85		釜山の癩患、療養所に送る	「朝鮮朝日」		1928(S. 3).10.23	4巻
146	B-86		向ふ寒さの今日に百名の癩患が全癒もまたで退院する、麗水療養所長の悲痛な述懐	「朝鮮朝日」		1928(S. 3).11.17	4巻
147	A-61		人肉を食へば癩病が治る、迷信から幼女を殺した若き癩患者の判決	「京城日報」第7546号	7面	1928(S. 3).11.28	
148	A-62		天刑病がなほる、両博士から、豪州で発表さる	「京城日報」第7590号（夕刊）	2面	1929(S. 4). 1.14	○
149	A-63		待遇が悪いと癩病患者の騒ぎ	「京城日報」第7598号	4面	1929(S. 4). 1.22	
150	B-87		嬰児を蒸焼し胆を食った癩患者の控訴公判	「朝鮮朝日」		1929(S. 4). 2.23	4巻
151	A-64		癩病菌の研究に志賀博士の大発見（写真入）	「京城日報」第7665号	7面	1929(S. 4). 3.31	○
152	A-65		志賀博士帰城	「京城日報」第7678号	2面	1929(S. 4). 4.13	
153	C-7	志賀　潔／林文雄	（第三回微生物学聯合学会演説要旨）癩菌ノ培養ト集落形成（予報）／追加（林） ＊1929.4.5～7 開催、会場・東京帝国大学医学部	「細菌学雑誌」第388号附録	56-57	1929(S. 4)	
154	C-8	Prof.K.SHIGA（志賀潔）	Studien über die Kultur der Leprabacillen.Iste Mitteilung	「京城医学紀要」第12巻第２号	14-22	1929(S. 4)	
155	A-66	村田　正太	日本は世界の代表的な癩病国	「京城日報」第7737号	3面	1929(S. 4). 6.12	
156	B-88		少女を踏殺し生肝を喰ふ、天刑病の名薬との迷信から犯行	「朝鮮朝日」		1929(S. 4). 9. 1	4巻

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
157	A-67		国際癩委員会を明春大阪に開く	「京城日報」第7824号	３面	1929(S. 4). 9. 8	
158	B-89		厄介な癩病者を釜山から郷里へ放逐す	「朝鮮通信」		1929(S. 4). 9.21	４巻
159	B-90		重症癩患者、療養所に送る	「朝鮮朝日」		1929(S. 4).10.25	４巻
160	B-91		癩患者八十名、療養所送り	「朝鮮朝日」		1929(S. 4).11. 7	４巻
161	B-92		野菜行商人にレプラ患者	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 1. 7	４巻
162	B-93		レプラ患者救済事業補助金増額	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 1. 9	４巻
163	A-68		癩病の研究家、各国から集まる、来春から東京で開催	「京城日報」第7949号	11面	1930(S. 5). 1.14	
164	A-69		急施を要する癩患者の救済、四月の国際総会を機に本府も方策を講ぜん	「京城日報」第7951号	２面	1930(S. 5). 1.16	
165	B-94		癩患者の殺人事件判決は四日	「朝鮮毎日」		1930(S. 5). 2. 1	４巻
166	D-①		京城大学総長、病院聯盟委員長として起つ ＊1930.1.23付の志賀潔の手紙を紹介	「希望の日本」第51号	7	1930(S. 5). 3. 1	
167	A-70		【全羅南道】天刑病予防請願書提出（道評議会第八日）	「京城日報」第7998号	４面	1930(S. 5). 3. 5	
168	B-95		「癩」研究その他材料を携へ、六十余氏が出席する日本医学会大会へ	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 3.23	４巻
169	D-②		朝鮮病院聯盟・看護婦連盟結成 ＊1930.2.15付で朝鮮病院聯盟委員長に志賀潔就任	「希望の日本」第52号	7	1930(S. 5). 4. 1	
170	B-96		癩患者廿七名を無断で大邱へ、釜山警察署非難さる、結局は逆送と決定す	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 4.10	４巻
171	B-97		癩患者は本籍地に送還す、放逐事件を動機とし、釜山、大邱両者の協定	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 4.12	４巻
172	B-98		衛生課長に西亀氏就任	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 4.15	４巻
173	B-99		癩予防法の施行を希望、各道が処置に全く大こまり	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 4.23	４巻
174	A-71		世界的発見たる癩病菌の人工培養、志賀博士の講演、来月三日城大講堂で	「京城日報」第8050号	７面	1930(S. 5). 4.26	
175	A-72		城大六周年の記念式と講演	「京城日報」第8053号	11面	1930(S. 5). 4.29	
176	D-③		志賀・近藤両博士の来社 ＊1930.4.20、志賀潔ら希望社本社を訪問	「希望の日本」第53号	20	1930(S. 5). 5. 1	
177	A-73		城大記念講演会、身動きならぬ程の大盛会	「京城日報」第8057号	７面	1930(S. 5). 5. 4	
178	A-74		【平安北道】天刑病者の救済方陳情、全道の現在患者五万人以上、各道に隔離病舎を設けよ	「京城日報」第8060号	４面	1930(S. 5). 5. 7	●
179	B-100		癩患者隔離場所の申請	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 5. 8	４巻
180	B-101		癩療養所演劇場、補助を申病	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 5.29	４巻
181	C-9	志賀　潔	世界に於ける癩の歴史と癩菌の研究	「朝鮮及満洲」第271号	37-40	1930(S. 5)-６	
182	D-④		朝鮮、京城府連盟の成立，志賀総長が主事にお起ち	「希望の日本」第54号	9	1930(S. 5). 6. 1	
183	C-10	志賀　潔	癩菌の培養に就て（昭和五年五月一日京城皮膚科学会に於て講演したる大要）	「医事公論」第933号	5-6	1930(S. 5). 6. 7	
184	A-75		人道上見逃せぬ放浪の天刑病者、撲滅の為国民の理解を望む	「京城日報」第8103号	３面	1930(S. 5). 6.19	●
185	B-102		癩患者の収容所の拡張、西亀衛生課長語る	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 6.20	４巻
186	A-76	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（一）	「京城日報」第8106号	３面	1930(S. 5). 6.22	

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
187	A-77	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（二）	「京城日報」第8108号	３面	1930(S. 5). 6.24	
188	A-78	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（三）	「京城日報」第8109号	３面	1930(S. 5). 6.25	
189	A-79	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（四）	「京城日報」第8110号	３面	1930(S. 5). 6.26	
190	A-80	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（五）	「京城日報」第8111号	３面	1930(S. 5). 6.27	
191	A-81	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（六）	「京城日報」第8112号	３面	1930(S. 5). 6.28	
192	A-82		最近の癩救済事業	「京城日報」第8112号	３面	1930(S. 5). 6.28	
193	A-83	志賀　潔	癩の歴史と癩菌（七）	「京城日報」第8113号	３面	1930(S. 5). 6.29	
194	D-⑤		創立十二周年と総裁の渡欧に際し寄せられた祝電 ＊祝電中に志賀潔の名前あり	「希望の日本」第55号	5	1930(S. 5). 7. 1	
195	D-⑥		朝鮮、京城府連盟、渡欧の総裁を向え朝鮮神宮にて平安祈願／京城大学総長志賀博士邸にて	「希望の日本」第55号	16	1930(S. 5). 7. 1	
196	D-⑦		終身社友芳名　　＊「朝鮮」に志賀潔の名前あり	「希望の日本」第55号	23	1930(S. 5). 7. 1	
197	C-11	志賀　潔	世界に於ける癩の歴史と癩菌の研究	「朝鮮公論」第208号（18巻７号）	15-	1930(S. 5)-７	
198	A-84		精神病と天刑病を避妊法で断種、内務省衛生局で研究して近く審議の上実施	「京城日報」第8121号（夕刊）	２面	1930(S. 5). 7. 7	
199	B-103		小鹿島慈恵医院の癩患者の食費を減額に就いて憂慮	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 7.15	４巻
200	B-104		哀れ朝鮮の顔に醜悪な泥土を塗る、狂躁病者やレプラ患者、府衛生課で収容方法を講ず	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 7.24	４巻
201	B-105		マ氏経営の癩収容所に補助金増額	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 7.24	４巻
202	B-106		癩病患者五十名、全治して解放さる、入れ替えに五十名を収容、釜山をうろつくに癩病患者減る	「朝鮮朝日」		1930(S. 5). 7.30	４巻
203	A-85		癩救護御下賜金、範囲を全国的に調査	「京城日報」第8168号	２面	1930(S. 5). 8.23	
204	A-86		癩病研究のためこの身を試験に，飜然悔悟の無期徒刑囚から志賀博士への書状	「京城日報」第8169号（夕刊）	２面	1930(S. 5). 8.24	
205	A-87		皇太后陛下の御仁慈、癩病院への御下賜は、畏し、御日常の御節約に依る貴い御内帑金	「京城日報」第8171号（夕刊）	２面	1930(S. 5). 8.26	
206	A-88		レプラ横行、警察も手古ずる	「京城日報」第8177号（夕刊）	３面	1930(S. 5). 9. 1	
207	D-⑧		赤痢菌の発見者志賀博士、癩菌の人工培養に成功、志賀博士は熱心なる同志、当の志賀博士は語る	「希望の日本」第57号	17	1930(S. 5). 9. 1	
208	A-89		癩病撲滅、有難き御思召しを體し、内務省の計画成る	「京城日報」第8196号	３面	1930(S. 5). 9.20	
209	A-90		畏し、皇太后陛下、朝鮮癩療養所に御下賜金の御沙汰、川西事務官拓務省と打合す	「京城日報」第8199号（夕刊）	３面	1930(S. 5). 9.23	
210	B-107		小鹿島に在る癩療養所を拡張、一千名収容を計画す、来年度予算に是が非でも計上	「朝鮮朝日」		1930(S. 5).10. 1	４巻
211	B-108		癩患の頭分に日当を与へ、部下を一所に集めて国調を完全に行ふ	「朝鮮朝日」		1930(S. 5).10. 2	４巻
212	A-91		癩療養功労者に御下賜の御沙汰、朝鮮では小鹿島の矢澤院長も光栄に浴せん	「京城日報」第8227号（夕刊）	１面	1930(S. 5).10.21	
213	B-109		癩病の継子の殺害を企つ	「朝鮮朝日」		1930(S. 5).10.21	４巻
214	A-92		癩予防協会設立協議、会長に渋澤子	「京城日報」第8228号（夕刊）	１面	1930(S. 5).10.22	
215	A-93		癩療養協会基本金百万円募集	「京城日報」第8228号	２面	1930(S. 5).10.22	
216	A-94		癩療養所、御下賜金割当、廿三日に決定、近く配布する	「京城日報」第8230号	２面	1930(S. 5).10.24	

No.	整理番号	著者名	記事名	号数	面	発行年月日	備考
217	A-95		畏し、皇太后陛下、癩療養金を御下賜、総額廿四万八千円、内相拓相拝受して退出	「京城日報」第8247号（夕刊）	２面	1930(S. 5).11.11	
218	A-96		皇太后陛下に御礼を言上す、癩療養費御下賜に対し、内、拓両相参内	「京城日報」第8264号	２面	1930(S. 5).11.28	
219	B-110		癩患者対策を定める	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 1.22	４巻
220	B-111		慶南道の癩患者、年々増加す、当局取締に悩む	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 1.22	４巻
221	B-112		癩患者救護週間	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 1.30	４巻
222	D-⑨		昭和六年初頭に開かれた本社主事総会関係者 ＊写真中に志賀潔あり	「希望の日本」第62号	2	1931(S. 6). 2. 1	
223	D-⑩		全国主事総会　＊1931.1.4～1.6開催、朝鮮からの出席者名中に志賀潔あり	「希望の日本」第62号	11	1931(S. 6). 2. 1	
224	D-⑪		全国主事総会出席者名簿　＊名簿中に志賀潔あり	「希望の日本」第62号	17	1931(S. 6). 2. 1	
225	D-⑫		本社庶務日誌　＊1930.1.3の早天修養会で志賀潔博士の挨拶ありと記	「希望の日本」第62号	20	1931(S. 6). 2. 1	
226	C-12	志賀　潔	癩の予防と撲滅とを期す　＊1931.2.15執筆	「朝鮮」第190号	1-16	1931(S. 6)-３	滝尾３巻
227	A-97		各国別に見た世界の癩患者数、支那が首位、日本が次、早期に診療隔離せよ	「京城日報」第8363号（夕刊）	３面	1931(S. 6). 3.11	●
228	A-98		皇太后陛下の御心を拝し奉り、御下賜金で夫々患者慰安、朝鮮の四癩病院	「京城日報」第8365号	７面	1931(S. 6). 3.13	
229	A-99	志賀　潔	安住を求めよ（四）＊1931.3.8 の明治会第３回講演会記録	「京城日報」第8369号	３面	1931(S. 6). 3.17	●
230	A-100	志賀　潔	安住を求めよ（五）	「京城日報」第8370号	３面	1931(S. 6). 3.18	●
231	B-113		志賀城大総長のレプラ根絶の計画、一千万円あれば可能	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 3.19	４巻
232	B-114		癩患者に自治村を造らせたい	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 3.25	４巻
233	A-101		一家族七人が心中、五人の愛児を絞殺、夫婦は轢死、癩病一家の悲惨事（宇都宮）	「京城日報」第8378号（夕刊）	２面	1931(S. 6). 3.26	
234	A-102		列国に後れぬやう癩療養を研究、医学大会出席を機会に各大学教授と提携（志賀城大総長談）	「京城日報」第8401号（夕刊）	１面	1931(S. 6). 4.18	
235	A-103	志賀　潔	癩の撲滅（一）	「京城日報」第8460号	３面	1931(S. 6). 6.17	●
236	A-104	志賀　潔	癩の撲滅（二）	「京城日報」第8461号	３面	1931(S. 6). 6.18	●
237	A-105	志賀　潔	癩の撲滅（三）	「京城日報」第8462号	３面	1931(S. 6). 6.19	●
238	B-115		大規模の癩患収容所、慶南道で新設の計画	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 6.20	４巻
239	A-106		【慶尚南道】浮浪癩患者の根本的対策、生活の安定を与へる事と収容所の設置	「京城日報」第8463号	３面	1931(S. 6). 6.20	●
240	A-107	志賀　潔	癩の撲滅（四）	「京城日報」第8464号	３面	1931(S. 6). 6.21	●
241	A-108	志賀　潔	癩の撲滅（五）	「京城日報」第8466号	３面	1931(S. 6). 6.23	●
242	A-109	志賀　潔	（ラジオ欄）癩病患者の慰安運動に就て	「京城日報」第8467号（夕刊）	３面	1931(S. 6). 6.24	●
243	A-110	志賀　潔	癩の撲滅（六）	「京城日報」第8467号	３面	1931(S. 6). 6.24	●
244	A-111		全国的に癩撲滅の烽火、京城でも「講演と音楽の夕」明廿五日を期して	「京城日報」第8467号	７面	1931(S. 6). 6.24	●
245	A-112		青い鳥社、希望社の夕に出演	「京城日報」第8468号（夕刊）	３面	1931(S. 6). 6.25	●
246	A-113		けふ、講演と音楽の夕	「京城日報」第8468号	７面	1931(S. 6). 6.25	●
247	A-114		癩患根絶座談会（大邱）	「京城日報」第8469号	４面	1931(S. 6). 6.26	●
248	＊		癩病座談会、全鮮一の集団地大邱府内外民の悩み、内鮮官民有力者大評定（大邱）	「関門日日新聞」第16562号	３面	1931(S. 6). 6.26	●
249	A-115		希望社主催、講演と音楽の夕【写真入】	「京城日報」第8470号（夕刊）	３面	1931(S. 6). 6.27	●

No.	整理番号	著　者　名	記　　事　　名	号　　数	面	発 行 年 月 日	備考
250	A-116		（全羅北道）希望社群山府聯盟主催「癩」患者慰安資金募集の「講演と音楽舞踊の夕」	「京城日報」第8471号	５面	1931(S. 6). 6.28	●
251	A-117		（忠清南道）レプラ根絶運動	「京城日報」第8471号	５面	1931(S. 6). 6.28	●
252	B-116		癩患者救護運動と根絶方策、大邱の座談会で決定	「朝鮮朝日」		1931(S. 6). 6.30	４巻
253	A-118		癩病撲滅の有益な使途に撲滅デー催しの純益金千円を	「京城日報」第8484号	７面	1931(S. 6). 7.10	●
254	D-⑬		京城の一日（志賀京城帝国大学総長邸の社友懇談会）	「希望の日本」第68号	7	1931(S. 6). 8. 1	●